

社会教育委員ニューズレター 第7号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会
事務局 佐賀県県民環境部まなび課内

全国社会教育委員連合総会

5月11日、東京都で開催された。

冒頭に鈴木会長から、「来年は新元号での総会となる。本会がどんな役割を果たし、今後どうしていくのかが問われる年でもある。」との挨拶があり、全国社会教育委員連合のこれからの運営について忌憚のない意見を求められた。

以前より懸案事項となっていた経費関連については、「公益的財産額と実財産との比較及び今後のコミュニケーションに沿って、小さなことから見直す等、経費削減の経営努力をした。」との報告が事務局からなされるとともに、会費及び機関誌の値上げについて継続的に審議し、2018年度中にめどをつけていくこととされた。

県社教委連第1回役員会

5月15日、県庁で開催した。

平成31年度佐賀大会については、今年2月に開催した社教委連・県公連双方の役員による合同会議を受け、大会の趣旨やテーマ、期日、会場や開催内容等が確認された。

役員会で出た意見等については、両団体の役員15名で構成された大会準備委員会で検討していくこととなった。

また、今年度から実施される「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰」については、社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった委員として市町から推薦された3名を表彰することが決定された。

平成30年度佐賀県社会教育委員連絡協議会総会及び基礎研修会

5月29日、佐賀市立図書館で開催した。



各市町から89名が参加

○上野会長挨拶

国の中央教育審議会で2018年度に策定される第三期教育振興基本計画では、「超スマート社会」において、人間はどんな力を身に付けておかなければならないかが書かれている。

この計画を受け、これから県・

市町においても教育基本計画や大綱などの作成に入ることになるので、社会教育委員にも積極的に関与してほしい。

今回の総会では新たに二つのことを行うこととしている。

まず、昨年度の総会で出された「県内で活躍されている社会教育委員の方を表彰すべきでは」というご意見を受け、役員会等で審議し、今年から佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰を行うこととした。また、以前の研修会の中で、会の活動方針を明確にというご意見をいただいた。これまで「社会教育さが」に執筆した内容を踏まえ、本総会で活動方針案を提起する。

○県社教委連表彰

受賞おめでとうございます。

- 白石町 吉岡 英允氏（24年）
 - 唐津市 佐伯 浩子氏（12年）
 - 多久市 田中 英行氏（10年）
- （ ）は、社会教育委員在任の期間

今年度から創設した標記表彰において、3名の方を表彰した。



左から 吉岡氏 佐伯氏 田中氏

【表彰基準】
社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があつた者

多年にわたり社会教育委員として御活躍されるとともに、社会教育の推進に貢献いただいたことに感謝申し上げます。

平成30年度 佐賀県社会教育委員連絡協議会役員

役職	氏名	所属
会長	上野 景三	佐城（佐賀市）
副会長	三 苜 紀美子	県社会教育委員
副会長	川下 武則	藤津（太良町）
理事	谷口 繁美	唐松（唐津市）
理事	重松 規昌	三神（上峰町）
理事	土井 力	杵西（江北町）
監事	中村 夕三子	藤津（鹿島市）
監事	末次 晃	三神（鳥栖市）

○総会

議事

第1号議案

平成29年度事業報告及び決算報告並びに監査報告について
・31年度佐賀大会に向けての東北大会視察報告が川下理事より行われた。

第2号議案

平成31年度佐賀県社会教育委員連絡協議会役員について

第3号議案

平成30年度活動方針案及び事業計画並びに予算について
・今年度の活動方針案について次のとおり提案した。
《平成30年度活動方針》
一 平成31年度全国公民館研究集会佐賀大会、九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会、九州地区公民館研究大会に向けて、活動を充実させよう。
二 ニューズレターを年2回発行し、広く住民に社会教育委員の活動を広めよう。
三 教育委員との意見交換の場を設け、協議を深めよう。
四 社会教育計画・生涯学習計画の策定を進めよう。

第4号議案

《平成30年度事業計画》
・31年度佐賀大会に向け、実践研修会を県公民館連合会との共同開催とするともに、今年度の熊本大会へ各地区の代表者に参加いただく。
平成31年度全国公民館研究集会佐賀大会・九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会・九州公民館研究大会について



各議案は挙手多数により承認された

・期日：平成31年8月29日（木）
（30日（金））
・会場：佐賀市文化会館大ホールほか
・全体会及び8分科会を開催
・その他の詳細については、県社教委連及び県公民館連合会の役員で構成される準備委員会（委員長には上野会長が就任）で今後検討される。

○基礎研修会

「社会教育委員のためのQ&A
及び人口減少時代における
社会教育委員の役割」

講師 上野 景二 会長

・従来の社会教育計画・生涯学習計画というものが、近年、教育振興基本計画に代わるようになってきた。国だけでなく都道府県、市町の教育委員会も教育振興基本計画を作っており、教育に関する計画、教育大綱も作成している。

また、行政のマスタープランの中にも、必ず教育の部分がある。それに加えて、平成30年度「市の教育」というものが作成されており、いずれも今年度の方向性を出すものである。

2018年は、第三期（国）教育振興計画の策定期期となっており、それに伴い都道府県・市町が教育基本計画策定の時期に入っていく。それぞれの市町で議論を始めてそれぞれの教育基本計画の中に社会教育委員の意見を反映させていきたい。

・20〜30年前は、青年団を卒業し

たら当たり前のように消防団に入っていた時代もあった。消防団の役員が終わったら、PTAの役員をする、PTAの役員が終わったら自治会の役員をする、体協の役員をする、そうやって地域の中で人が育っていく仕組みがあり、それが社会教育関係団体の大きな役割であった。

社会教育関係団体が、その活動を通して地域の担い手を育てていく、後継者をつくっていくということが今どうなっているのかについては、市町で考えてほしい。

〈Q&Aから〉

Q.「学校教育では、道徳教育に取り組んでいるが、地域での道徳教育、あいさつや言葉遣いなどには、どのような対応がなされているか？」

・社会教育委員であっても挨拶運動や校区の見守りにあたっている。今見守っている方は、PTA役員・民生委員のBの方が多い。

学校から地域の見守りや挨拶運動の依頼があるが、その時間帯に家にいる方ばかりでなく、外に

いて仕事をしている方もいる。見守りに関心をもっていただけるような地域の世論をどう作るのか、地域の子どもの安全、子ども道徳心の向上に関心を持って活動しようと思っている方をどうやって増やしていくのか、知恵を絞っていくのが公民館・社会教育の役割ではないか。

Q.「学校・社会教育のスポーツの部分で、学校の取組・地域の行事等に参加できない子どもたちにもどのように対応されているのか？」

・部活動に参加できない子どもたちは、一つは、参加したいけれども、家庭の経済的な事情でやれない子どもたち。

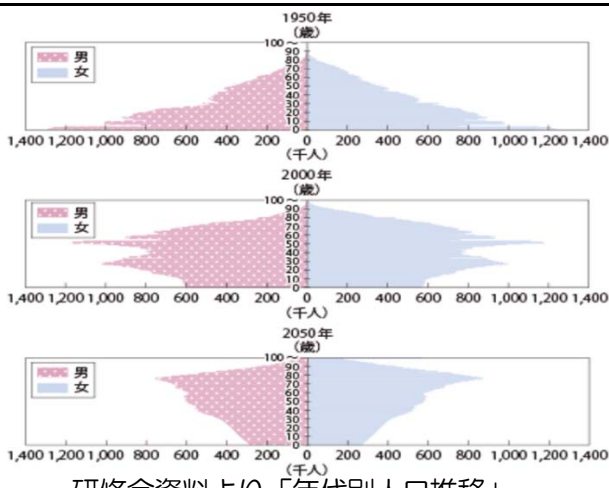
もう一つは、学校の規模が小さくて、野球部がないのであきらめる、そうでなければ、隣接している学校や私立の学校に行く。このように子どもたちが校区から流失していくことで小さな学校がさらに小さくなっている。子どもが減少している学校を持つ校区・自治

体にとっては、喫緊の課題である。

この問題は、社会体育、社会教育の分野だけでなく、学校体育を含めて青少年のスポーツの振興の在り方を考えていく必要がある。

〈人口減少時代における社会教育委員の役割〉

・これ（左図）は、1950年、2000年の年代別人口推移と、2050年の予想図である。人の寿命が伸び、高齢者層の増加が進むとともに、人生100年時代が間違いなくやってきていることが示されている。



研修会資料より「年代別人口推移」

人口が減少する中で高齢化社

会をどう生き抜いていくか。人生100年時代には、人生モデルが「教育↓仕事↓引退」の3ステージからマルチステージに変化していくことから、社会教育が果たす役割、社会教育委員の役割は今後さらに重要なものとなってくる。

第48回九州ブロック社会教育研究大会（熊本大会）

期日：10月18日（木）～19日（金）
会場：熊本市内（熊本市民会館、県民交流館パレオ等）
主題：夢や希望「あふれる思い」ば、かたらんね！～社会教育でつながる九州の絆～
参加費：3,000円

佐賀県からは、佐賀市における取組が発表される。
分科会：第3分科会 社会教育委員の役割
発表者：佐賀市社会教育委員 副委員長 平川 哲夫氏
内容：「まちづくり協議会と社会教育委員のかかわり」

校区における「まちづくり協議会」を地域活動の母体とし、社会教育委員が地域づくりの活動を推進するとともに、NPOや企業、大学生も巻き込んだ「地域づくり交流会」等を開催した取組を発表される。

平成31年度佐賀大会に向けて、また、九州各県の仲間との絆づくりや今後の地域を輝かせる取組の参考にするため、多数の社会教育委員及び事務局の方のご参加をお願いします。

参加申込みは市町ごとに取りまとめの上、8月28日までに県まなび課内事務局へ送付ください。

第60回全国社会教育研究大会（青森大会）

期日：10月24日（水）～26日（金）
※24日は社教連理事会と事務局担当者会のみ

会場：青森市内（リンクステーション ヨン青森、青森国際ホテル）
スローガン：社会教育の新たな種を広めよう 青い森から全国へ

主題：課題をチャンスに 持続可能な未来を創る社会教育の実践を

事例発表においては、全国公募において採択された佐賀市立嘉瀬公民館の取組が発表される。

分科会：第4分科会 地域と学校連携

発表者：佐賀市立嘉瀬公民館 主事 永淵 薫氏
内容：「青藍の心を通して文化創造のまちづくり」

ご参加の方は、開催要項に沿って直接お申し込みください。

【シリーズ】我が市町の社会教育委員活動（Ⅲ）

佐賀市社会教育委員のこれまでの取り組みと今後の予定
佐賀市社会教育委員 木原 久美子

その時、佐賀は世界を見ていた。そして今、佐賀は未来を見ています。

佐賀市では、「肥前さが幕末維新博覧会」が開催中です。先人たちの思いを顕彰し、佐賀の魅力を解き明かせる体感型テーマ館やイベント、まち歩きなどを通して、歴史や文化・食・アートなどのさまざまなドラマと出会えます。

佐賀市の社会教育委員

小中学校校長会、市立公民館長会、PTA協議会、青少年健全育成連合会、子ども会連絡協議会、家庭教育支援団体、子ども・若者を支援するNPO、佐賀県警、大学、短期大学から10名、公募委員3名の13名（男性6名、女性7名）で構成されています。

これまでの取り組み

老朽化した佐賀市青少年センターの建て替えに伴い、新青少年センターの役割と機能を検討するために、社会教育委員の会議下に「青少年教育のあり方に関する検討委員会」を設置しました（平成24年度）。検討委員会では7回の勉強会を開き、現状把握をするために、佐賀市版「子ども・若者白書」を作成しました。



新しくなった青少年センター

平成25年度には、教育委員会から諮問を受け、医療、労働、警察、学校子ども団体、社会教育施設、NPO等の関係機関から委員が集まり、「青少年教育のあり方検討委員会」が設置されました。半年かけて協議を行い、青少年センターの新しい役割・機能（青少年教育の拠点と困難を有する青少年への



佐賀市「子ども・若者白書」

支援拠点など）について教育委員会に答申しました。

平成28年10月にオープンした新青少年センターは、月平均で、7,500人の利用があり、多くの若者の居場所となっています。

今年度の予定

これほど利用が多い青少年センターについて、利用者との意見交換会を今年度初めて開催予定です。また、教育委員と社会教育委員との意見交換・懇談会はテーマを決めて11月頃に開催予定です。

毎年度末に協議する社会教育助成事業補助金交付については、積算の根拠や活動報告を兼ねて社会教育関係団体のヒアリングを2年おきを実施していて、来年2月頃開催する予定です。

人生100年時代、これからの「未来」をつくる

人生100年時代、どの世代もいきいきと過ごせるように、子どもから高齢者までが身近に触れられる「社会教育」を展開していきたいものです。そして、さまざまな社会教育活動をおして、学校・

家庭・地域が連携しながら、「人と人をつなぐ」社会教育委員の役割を果たせるよう務めていきたいと思えます。地域の小さな活動も、これからの「未来」をつくる機会になると信じています。

鳥栖市の社会教育について

鳥栖市教育委員会生涯学習課

鳥栖市社会教育委員

榎崎 タキ子

鳥栖市社会教育委員は、体育協会、PTA、子どもクラブ、区長会、民生委員・児童委員、老人クラブ等の団体からの代表や、学識経験者など13名で構成しています。

年2回の委員会開催と、県内外の研修会の参加等の活動を行っています。

平成29年度の委員会では、小学校で地域コーディネーターをされている榎崎委員に、活動内容を発表していただきました。

【テーマ】

「学校が求める地域の力——本物に触れる」

小学校での農業体験を中心にした活動

年間プログラムの作成

体験活動の内容、地域の人材、時期などを考え、学校と一緒に作り上げていく。

体験活動

農業体験では、農家の人の協力を得ての畑作りから始まる。校舎の周りの畑は野菜がすくすくと成長し、子どもたちも収穫を楽しみに世話をしている。

地域の協力

学年に応じてたくさん体験学習を仕組み、地域の方々の積極的な協力を得ている。

「写真からではあるが、子どもたちの生き生きとした姿に触れ、子どもを中心に、地域と学校が一つになる事の重要性を感じる。」

それぞれの地域で、学校と地域がつまぐ連携できる環境づくりに、社会教育委員の果たす役割は大きいのではないかと榎崎委員は、

意見を述べられました。
 今後、各社会教育委員の活動を
 紹介することで情報を共有し、
 鳥栖市の社会教育についての意見
 交換を活発に行っていきたいと考
 えています。



サツマイモを収穫して大喜びの1年生

有田町社会教育委員の取組

有田町社会教育委員

福島 スミ子

有田町は佐賀県の西部に位置
 し、人口約2万人、面積65・85平
 方メートルの町です。平成18年3

月1日に旧有田町と旧西有田町が
 合併し、新しい「有田町（ありた
 ちよう）」となりました。

東はやきもの町、西は農業の
 町として二つの顔を持った町です。
 この市町村でも同じでしょ
 うが、急速に少子高齢化が進んで
 います。

有田町の社会教育委員は、地域
 婦人会、体育協会、老人クラブ連
 合会、文化協会、自治公民館長会、
 小中学校の校長会、子どもクラブ
 連絡協議会、公募委員など、男性
 6名、女性2名の計8名で活動を行
 っています。会議は年2回開催
 され、提案された議題に対し活発
 な意見交換が繰り広げられます。

私が所属している地域婦人会
 も社会教育委員活動の一環として
 青少年健全育成や高齢者の生きが
 いのある社会づくり、子どもを交
 通事故から守るための朝の街頭啓
 発活動、更生保護活動として青少
 年の非行防止、犯罪者の更生、子
 育て支援活動などを行っています。
 これらについては、子どもの貧
 困やいじめ問題、高齢者支援、地
 域防災などにおいて地域の方々が
 安心・安全に生活ができるように

との思いでボランティア活動にが
 んばっているところです。



子どもの健全育成・子育て支援の取組

「出来る人が出来るときに」を
 モットーとして日々努力していま
 す。今後も社会教育委員として、
 積極的に町の社会教育・生涯学習
 の推進に努めていきます。

お詫ひ

平成29年度の総会において、今
 回の執筆担当市町として上峰町が
 決定していましたが、諸般の事情
 により次回に掲載します。

次回「シリーズ」我が市町の社会教育委員活動」予告

次回の執筆担当市町は、伊万里
 市・神埼市・江北町・太良町・上
 峰町となっています。

本年12月中旬をめどに、原稿の
 執筆をお願いします。

各市町の特色ある社会教育委員
 活動や委員の会議での協議内容、
 委員の社会教育委員活動に対する
 思いなど、内容はお任せします。

執筆は、可能な限り社会教育委
 員の方にお願ひしますが、難しい
 場合は、社会教育委員担当課も可
 とします。

なお、全て文字だけによる記載
 ではなく、活動や記述に関連する
 写真または図表等を1枚（キャプ
 ションも付けて）添付していただ
 くと、読みやすいようです。

県まなび課のホームページに、
 ニューズレター（第1号）第
 7号）を掲載しています。（「佐
 賀県まなび課」で検索。研修
 資料等に御活用ください。